

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 救急自動車の振動と防振架 台の効果と対策 《筆頭論文》	共著	平成27年4月	日本臨床救急医学 会雑誌 18(1)5-14	救急車の防振架台は共振により車体振動より 大きいため、固定するなどの対策が必要であ ることが判明した。(10頁) 安田康晴、二宮伸治、諫山憲司、竹井豊 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) Development of a first-responder dispatch system using a smartphone	共著	平成26年3月	Journal of telemedicine and telecare.2014 ; 20.75-81	ファーストレスポonderの出動体制にスマー トフォンを活用したシステムの構築につい て。(7頁) Chikara Yonekawa, Masayuki Suzukawa, Keisuke Yamashita, Katsuaki Kubota, Yasuharu Yasuda, Akihiro Kobayashi, Hiroki Matsubara, Yoshiki Toyokuni 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (学術論文) MUSCLES USED FOR CHEST COMPRESSION UNDER STATIC AND TRANSPORTATION CONDITIONS 《筆頭論文》	共著	平成25年1月	Prehospital Emergency Care. 2012;17. 162-9.	救急車内での胸骨圧迫の質低下について検討 したもの。救急車内での胸骨圧迫は床に比べ 使用筋肉群がことなることが判明した。 (8頁) Yasuharu Yasuda, Yoshinori Kato, , Katsuhiko Sugimoto, Shigeharu Tanaka, Naoya Tsunoda, , Daisuke Kumagawa, , Yoshiki Toyokuni, , Katsuaki Kubota, Hideo Inaba 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) 救急活動時におけるボディ メカニクスの効果-ストレッチ ャー上げ動作時の検証- 《筆頭論文》	共著	平成23年8月	日本臨床救急医学 会雑誌 14(3)426-30	救急活動中で最も身体負担を感じている活動 はストレッチャーの上げ下げである。ストレ ッチャーの上げ動作をボディメカニクスに基 づいた動作と基づかない動で筋活動を携帯型 筋電計を用いて測定した結果、ボディメカ ニクスに基づいた動作では腰部筋活動が軽減 することが判明した。(4頁) 安田康晴、加藤義則、熊川大介、田中重陽、 角田直也 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (著書) 救急観察処置スキルマニ ュアル	単著	平成27年1月	ぱーそん書房	救急救命士に必要とされる手技について画像 とチェックリストを用いた教書。 191頁
6 (著書) 救急現場活動シリーズ 「傷病者の搬送と移乗」 「感染対策」 「コミュニケーションと問 診」	単著	平成26年6月	へるす出版	救急現場活動に必要な知識と技術をまとめた 教書。 66頁 57頁 79頁
7 (著書) ぬりえで学ぶヒトのからだ	単著	平成26年4月	ぱーそん書房	医療人として必要な解剖学についてまた 教書。 125頁